



検査のとびら



作成 2023年12月 検査室

発行 つくしが丘病院検査室・医療安全管理室

すい臓・胆のうの検査

すい臓と胆のうの場所と働き

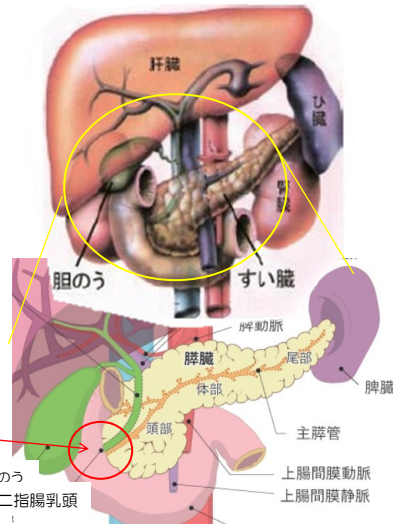
すい臓

体の正面から見ると胃の裏側にあり、横に長く15cm位で平べったい形をしています。働きは、タンパク質やデンプン、脂肪を分解するすい液の他、血糖値を調整するインスリン（ホルモン）を分泌しています。

胆のう

肝臓の下に張り付くようにある小さなナス形のような臓器です。働きは肝臓で作られた胆汁という脂肪の消化を助ける消化液を貯え、必要なときに十二指腸に分泌しています。

すい臓と胆のうはそれぞれ異なった臓器ですが、密接な関係を持っています。たとえば、十二指腸に食物が入ってくると、胆のうに貯えられていた胆汁と、すい臓から排出されたすい液が合流して十二指腸乳頭部から分泌され、食物の消化・吸収に役立ちます。病気もこの2つの臓器が関連して生じることがあります。



すい臓と胆のうの検査・血液

アミラーゼ

唾液や膵液に含まれる糖質を分解する酵素です。唾液腺や膵臓の細胞が壊れたり炎症を起こすと血中に増加します。基準値：42-132U/L

リパーゼ

脂肪を分解する消化酵素で膵液に含まれる。膵臓の細胞が壊れたり炎症を起こすと血中に増加する。臓器の特異性高い。基準値：11-53U/L

ビリルビン

古い赤血球が破壊されて出来る黄色い色素。胆管等の障害により胆汁の排泄が不十分だと血液中に増加します。基準値：0.3-1.2 mg/dL

腫瘍マーカー

すい臓癌を疑う時は、CA19-9、Span-1、DUPAN-2、胆管癌を疑う時は、CA19-9、CEAを検査する。腫瘍があると値は上昇。

すい臓も「沈黙の臓器」

*膵・胆道系の検査ではAST、ALT、rGTP、ALPなどの項目も参考にします。

*膵炎ではアミラーゼとリパーゼが共に上昇。

すい臓と胆のうの病気



**膵炎の最大の原因は
アルコールの大量摂取!!**

急性膵炎

膵臓に含まれる消化酵素により、膵臓自体を消化してしまう病気。上腹部に激痛が出る、嘔吐・発熱症状あり

慢性膵炎

炎症の持続で膵臓の細胞が壊れ硬くなり膵臓が機能しなくなる。消化酵素の分泌低下により消化不良・下痢、体重減少、糖尿病の発症・悪化が生じる。

胆石症

胆汁を送り出す胆管内に石が出来る病気です。胆管結石症では胆汁の流れを塞ぐために上腹部の痛みや吐き気・嘔吐、黄疸症状がでる。

どうして超音波検査に絶食が必要？



上腹部の超音波検査では絶食を必要とします。

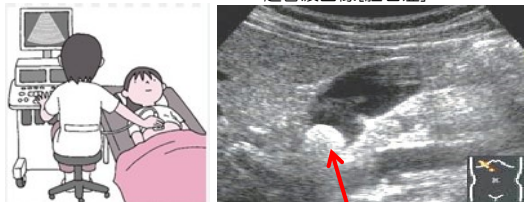
なぜなら、食事をすると胆のうは胆汁を分泌するため収縮し、胃をはじめとする消化管にガスが発生します。

収縮した胆のうでは、胆のう内の結石が見つかり難くかったり、発生したガスによって、胃の裏側にあるすい臓などが、観察し難くなったりするためです。

腹部超音波検査

胆石症を疑った場合、上腹部の超音波検査を行い、胆石の有無や大きさ、数、さらに胆のうの状態を調べます。

超音波画像[胆石症]



胆のうの中に見える、白いものが胆石です。

膵臓・胆のう検査には、超音波検査、CT・MRI検査など画像検査もあります。



**腹部超音波検査の時には
絶食を守り胆汁の貯まった状態
で胆のうを見やすくしよう！**

問合せ先：検査室 佐藤まで